

第1章 水道事業ビジョン・経営戦略策定の趣旨

1. 水道事業ビジョン・経営戦略策定の趣旨

長生郡市広域市町村圏組合の水道事業は、昭和49年4月に建設を始め、昭和55年7月に一日最大給水量72,850m³を目標に供給を開始しました。

創設事業は、未給水地域への配水施設整備を重点に、茂原市、一宮町、長柄町及び長南町の既設水道（水源：地下水）を統合した上で、長生郡市の全域に給水を開始し、既設水道のない地域は九十九里地域水道企業団からの受水により給水することとしました。

その後、社会環境や地域経済の発展に伴う水需要の増加に対応するため、昭和63年度に一日最大給水量77,600m³とする第1次拡張事業を行い、更に平成5年度には一日最大給水量108,410m³とする第2次拡張事業を実施しました。

今日では、受水及び地下水の水源を基盤に安定した水道水の供給体制を確立し、ほぼ全ての住民が水道を利用できるまでに普及しました。

長生郡市においては、すでに水道の普及率も96%を超え、普及拡大による需要増が期待できず、人口の減少や節水機器の普及などから料金収入が低迷を続け、経営環境が厳しさを増す中であって、老朽化した水道施設の更新・再構築をはじめ、施設の耐震化など、早急に取り組みなければならない課題があり、一刻の猶予も許されぬ状況であります。

また、経営環境は、人口の減少、節水意識の向上、再生水の利用等による有収水量の減少、既設水道や創設時に整備した施設の大量更新、近年多発する自然災害への対応など、厳しさを増しています。

このような状況に対し、水道施設等の計画的な更新を進め、施設や管路の健全化を維持していくためには、水運用の見直し、組織や事務事業の効率化など経営基盤強化のための取り組みを一層推進するとともに、中長期的な視野で事業経営に取り組んでいくことが重要です。

このため、独立採算を原則とする水道事業には、長期的な視点に立った経営を進めるため、施設の延命化や事業の厳選、費用の平準化や事業の効率化などを図り、将来を見据えた「水道事業ビジョン」を策定し、主要施策に掲げる「水」の安定給水体制の確保」「災害に強い水道の構築」「水運用の見直しによる更新需要の抑制」及び「水道事業運営の健全化・安定性の向上」の実現を目的として、経営の基本計画となる「経営戦略」を策定したものです。

2. 水道事業ビジョン・経営戦略の計画期間

水道事業ビジョンは、中・長期的な視野に立脚して40年後の将来を見据え、水道事業の方向性を定めたものであり、経営戦略は水道事業ビジョンで掲げた理想像を具現化するための取り組みとして令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とし策定しました。

また、将来的に社会経済情勢が急激で大きく変化していく状況を的確に捉えて、適切に対応していくため、概ね5年毎に本計画の見直しを実施し、弾力的な運用を図っていきます。

3. 水道事業ビジョン・経営戦略の位置づけ

長生郡市広域市町村圏組合水道事業の水道事業中期計画（水道事業ビジョン）は、「安全な水の安定給水」、「給水サービスの向上」及び「持続可能な水道事業経営」と主要施策とし、平成24年3月に策定しました。

その後、平成25年3月に、厚生労働省より「新水道ビジョン」が公表されたことを受け、計画内容の見直しや再検証を行い、今回策定した水道事業ビジョンは、将来の長生郡市広域市町村圏組合水道事業の方向性を示すマスタープランとして位置づけられるものです。

また、策定した水道事業ビジョンを確実に実施していくために必要となる経営基盤の強化・資産管理（アセットマネジメント）などの具体的な取り組みを経営戦略として策定するものです。

（新水道ビジョンが示す水道の理想像）

